

みんなのた場



北上地区・北上町女川

大内

優陽君 (11歳 北上小学校6年)
 瑛斗君 (10歳 北上小学校5年)
 柊斗君 (10歳 北上小学校5年)
 瑠菜ちゃん (6歳 北上小学校1年)

酪農手伝い仲良しきょうだい

北上町女川で酪農を営む大内章宏さん、あかりさん夫妻には4人の子どもがいます。両親の健一さん、葉子さん、祖母のスミエさんも同居しており、総勢9人のまさににぎやか家族です。

長男の優陽君は下の子の面倒見が良く、次男の瑛斗君は運動が得意で、授業でも同級生のお手本になります。双子で三男の柊斗君はしっかりと自分で決めたことをしないと気が済まない性格だそうです。兄のまねをしたがる一番年下の瑠菜ちゃんは3人をまぜた



親思いの優しい子どもたちです

ような性格で、ずっとおしゃべりしていて家族を明るくします。

男の子3人はスポーツ少年団で野球に汗を流します。チームは新型コロナウイルス感染症拡大の影響で長く休止していましたが、10月からようやく活動を再開しました。家に4人いるときは、ゲームをして過ごすことが多いそうです。時にはけんかもありますが、基本的には仲が良いきょうだいです。

上の3人は学校から帰って宿題を済ませると、牛舎でえさやりや寝床づくりを手伝います。瑠菜ちゃんも「牛がかわいい」と言い、時々、親を手伝って子牛にミルクを与えるそうです。ただ、生き物相手の酪農は年中無休。家族での旅行は3年前に1度、行ったきりですが、4人は不満を言いません。両親は「なかなか構ってあげられなくても、自分たちだけである程度何でもできるの助かっています」と子どもに感謝しています。

特に優陽君は「大変だと思ふ」と親の仕事を理解しています。そんな優陽君が将来になりたい仕事は酪農家、ではなく大工さん。婿養子で酪農を継いで8年ほどの章宏さんは、「自分たちの代で終わりがかな…」と苦笑いしていました。4人の子の意志を大事にする両親は「自分から進んで何でもやる子、しっかりとした芯のある子に成長してほしいです」と願っていました。

ささえあいセンター通信 ⑥

～「福祉まるごと相談窓口」などについて～

ささえあいセンター事業の一つに、包括的な支援体制構築事業として「福祉まるごと相談窓口」があります。「福祉まるごと相談窓口」では、多くの問題を抱えている場合や制度の狭間で困りの方などの相談を「受け止めて」「問題を整理して」「関係機関につなぐ」ということを行っています。

また、「どこに相談していいかわからない」「市役所には相談に行きづらい」場合や「ヤングケアラー(18歳未満で親の介護や世話などをしている)」「ひきこもり」など周囲からの相談も受けています。

仕事などで日中の時間がとれない場合は、事前予約で夜間相談(毎週木曜日 午後5時～7時)・休日相談(第3日曜日 午前9時～午後1時)も行っています。

●「福祉まるごと相談窓口」の実績

相談件数

	令和元年度	令和2年度	計
単発相談	70	114	184
継続相談	38	78	116
計	108	192	300



詳しくはホームページで

令和元年度の相談内容は、主に「病気や健康、障害のこと」「収入・生活費のこと」「介護について」の順で多い状況でした。

令和2年度は、「病気や健康、障害のこと」「収入・生活費のこと」は前年度と同じですが、次に「住まいについて」が新たに多くなり、コロナ禍の影響もあるためか生活困窮に起因する内容が多くなりました。

●「包括的な支援体制構築事業」

「福祉まるごと相談窓口」のほかに、地域づくりとして、「地域で困っていること」の解決に向けて話し合いをしたり、気軽に交流できる居場所づくりなど、地域のさまざまな相談の受け止め・地域づくりも進めています。



私たちが相談に乗ります

☎ 包括ケア推進室(ささえあいセンター内)

☎ 25-6659



石巻市立桜坂高等学校

桜坂だより

第24号

こんにちは、桜坂高等学校です。

今回は式典行事進行補助として参加した【第40回全国豊かな海づくり大会】のリハーサルと、全校生徒で参加した南浜津波復興祈念公園の【復興の森植樹】の様子を紹介します。



9月5日

【第40回全国豊かな海づくり大会】のリハーサルには、当日担当生徒を含む18人が参加し真剣に式典行事補助の練習を行いました。10月3日の式典当日は式典補助・介添として、練習の成果を発揮することができました。



9月22日

定期考査が終了したこの日の午後、全校生徒が徒歩で南浜津波復興祈念公園へ移動。各クラス指定の区画に、1人あたり4～5本のクロマツ(市の木)などの苗を植樹しました。この場所が、皆さんの植えた木々によって豊かな森となるようにみんなで見守っていきましょう。



牡鹿 おかげさまで2周年

ホエールタウンおしかで感謝祭



鮎川浜の観光拠点施設ホエールタウンおしかの開館2周年を記念した「ありがとう感謝祭」が10月2、3日に開かれました。初日は金華山沖で獲れたサバやタイ、タチウオなどの詰め合わせがお得に購入できるコーナーに長蛇の列ができたほか、買い物金額に応じて引ける抽選会も人気。鮎川港を眺めながらカキやホタテの浜焼きを楽しめるブースもあり、地域の皆さんや親子連れでにぎわいをみせていました。

石巻 芸術、文化の街で大行進

装飾ランドセル背負い

市街地の芸術、文化拠点を巡りながら行進する「石巻アートパレード」が9月26日、石巻駅前や中心市街地で行われました。東日本大震災直後に支援物資で届いたが、余ってしまったランドセルを素材としたアート作品を背負い、JR石巻前から日和山公園を經由して石ノ森萬画館まで約3時間かけて歩きました。参加者は街なかにアート拠点がが増えてきたことを実感していました。



河北 市職員の仕事 肌で体験

飯野川中学校の2年生

9月21日に飯野川中学校2年生2名が、1日職場体験で河北総合支所を訪れました。午前中に庁舎内を見学しながら各課の業務内容について職員から説明を受けた後、総合支所庁舎内外に交通安全の啓発幕を設置しました。午後からは上品山牧場や排水機場へ足を運び、現場を目の当たりにしながら、管理・運営や仕組みについて学びました。短いスケジュールの中で、1つ1つの体験に真剣な表情で取り組んでいました。



雄勝 開放空間に響く歌と演奏

1300回目のわいわい音楽会

「第130回わいわい音楽会inおがつ」が9月26日に雄勝観光物産交流館の屋外デッキで行われました。市内外のアマチュア演奏家らが邦楽、洋楽などを披露し、歌と演奏でにぎわいを生みだしていました。42年前に仙台市で始まった音楽イベントであり、県内を巡回しています。初秋の雄勝湾が一望できる開放された空間に音色が響き、足を止めた人々は体を揺らしてリズムを取っていました。



河南 死亡事故ゼロ1000日は通過点

安協河南支部・きずな作戦展開

秋の交通安全県民総ぐるみ運動(9月21~30日)の初日に合わせ、石巻地区交通安全協会河南支部は、広瀬を通る国道108号沿い交差点で街頭啓発活動「かなん絆作戦」を展開しました。河南地区では平成31年1月8日から死亡事故ゼロを継続し、10月3日に1000日を達成しました。



桃生 3年生最後の晴れ舞台

桃生中吹奏楽班・校内演奏会

桃生中学校の総合文化部吹奏楽班約30人による校内演奏会が9月15日に体育館で開催されました。本来、演奏会は文化祭の中で行われる予定でしたが、コロナ禍で文化祭を催すことが困難だったため単独で行われました。3年生部員にとってはこれが中学校最後のステージ。「夜に駆ける」「ハナミズキ」などアンコールを含めて計9曲演奏し、聴衆の生徒たちも手拍子などで盛り上げました。



北上 黄金色の稲穂 実りの秋

北上小3年生が稲刈り体験

北上小学校の3年生13人が、北上町女川の水田で9月22日に稲刈りを行いました。地元農家の皆さんに鎌の使い方を教わった後、今年5月にみんなで植えたモチ米「みやこがね」の稲を刈り取りました。活動は農業学習の一環で、例年は地域の皆さんと一緒にもちにして食べていますが、コロナ禍で昨年からは休止しています。脱穀や精米した後は子どもたちで食べる予定です。

